

年間計画や指導案のひな型を 校長が示し、全教師で練り上げる

東京都府中市立府中第三中学校

府中市立府中第三中学校は、2011年度の校内研修のテーマを「言語活動の充実」と設定し、全教師が各授業に言語活動を主体的に取り入れている。各教科のねらいを達成するための取り組みと、特別活動や日常的な場面での取り組みとを関連させ、効果を高める言語活動を目指している。

生徒の現状

- 感受性が強く、豊かな内面性を持つ
- 自分の考えを自信を持って表現することが苦手

取り組みの基本的な考え方

- これまでも行っていた言語活動を意識し直すことで授業力を更に高め、目指す生徒像に迫る
- 全ての教育活動で言語活動を意識することで、「生きる力」を育む

取り組みの概要

- 研究1年目：基礎知識と実践の方向性を共有
研究2年目：言語活動の具体的な実践イメージを描き、評価の観点のポイントを理解することを目指し、新学習指導要領の完全実施に備える
- 言語活動を取り入れるプロセスを明確にし、各教科の年間指導計画を作成。研究会などで全教師が共有する

取り組みを続けるポイント

- 「言語活動」は新しいキーワードのため、まず校長が基本計画やひな型を作成し、それを基に各教師が改善していく
- 日々の授業観察を通じて、管理職と各教師がこまめに、授業づくりについて丁寧に話し合う

School Data

◎ 1960（昭和35）年開校。東京都の中央部、多摩地域に位置する。市内中学校初の通級指導学級を設置。自然教育にも力を入れている。2007年に中央が吹き抜けの新校舎が完成した。



校長◎谷合しのぶ先生

生徒数◎589人 学級数◎16学級

所在地◎〒183-0027 東京都府中市本町4-16-10

TEL◎042-361-9303

URL◎<http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

公開研究会◎未定

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

豊かな内面性を自ら表現できる力を身に付けさせたい

府中市立府中第三中学校は、2011年度の校内研究のテーマを前年度に引き続き「言語活動の充実」と設定した。その背景となる生徒の現状と身に付けさせたい力を、谷合しお校長は次のように話す。

「本校の生徒は感受性が強く、スピーチや運動会の選手宣誓、作文などの『場』を与えると、内面にある豊かな言葉を紡ぎ出すことが出来ます。一方で、日常生活や授業の中で自分の考えを表現したり、自信を持って発言したりすることは苦手です。言語活動を通して、生徒が持っている豊かな内面性を日常的に自ら表現する力を付け、主体的に学ぶ力や人間関係力を高めたいと考えました」

そのために、まず、授業で各教科のねらいを達成するための言語活動を充実させることを中心に捉えた。そして、学校行事や生徒会、学級活動などの特別活動、日常的な場面での言語活動を、各教科での言語活動と意識的・有機的に関連させて効果を高めることを目指している。

漠然と行ってきた言語活動を理論付けして枠組みを作る

谷合校長は、言語活動の手法そのものは既に行っていることであり、全く新しい取り組み

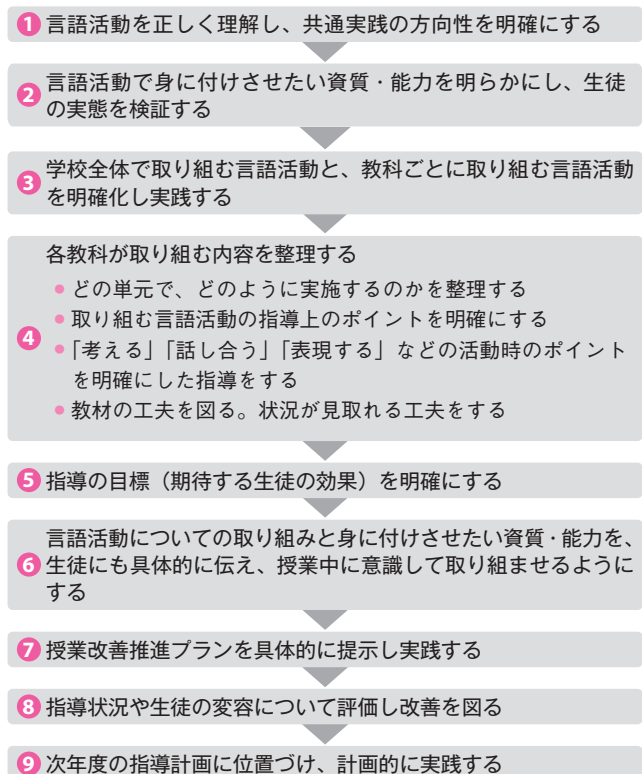
みを始めるわけではないことを校内で繰り返し伝えている。

「各教科にはねらいがあり、それを達成する授業を行うことが大前提となります。重要なのは、今まで漠然としてきたことを『言語活動』として意識し、理論を理解し、枠組みを作り、指導にしっかり位置付けることだと思います」

具体的なプロセスは図1の通りだ。実践に当たり谷合校長は、急に「言語活動の充実」を掲げても、教員の足並みをそろえることは難しいと考えた。そこで10年度の1年間は、教師全員が、言語活動の基礎知識を得て、大まかでよいので実践の型や方法論をイメージできるようにすることを目標とした(図1①)。

「先生方には、頭の片隅で常に言語活動を意識するように伝え続けました。校内研修会には講師を招き、言語活動の効果や、従来の指導をひと工夫するヒントを話してもらいました。そうすることで、生徒の意欲や主体性をどうやって高める

図1 言語活動を充実させた授業づくりのプロセス(研究計画)



*同校の資料を基に編集部で再構成



府中市立府中第三中学校校長
谷合しのぶ Tanai Shinobu
「自分の生きがいを持ち、与えられた役割を認識しながら社会に貢献できる人材を育成したい」

かを考える際にも、『授業の中に言語活動を取り入れたらどうか』と意識できるようにしていきました」(谷合校長)

教師が週ごとの指導計画を提出する際には、「国語でもグループ討論を取り入れてみれば、生徒はもっと主体的に勉強できるのでは」など、少しずつ授業に言語活動を取り入れるように提案した。

日常的な授業観察を通して こまめに改善案を話し合う

谷合校長は、毎日教室に足を運び、授業を見る。

「先生方を尊重しつつ、気になるところがあれば、すぐ先生に伝えていきます。『あの部分は、単に計算させるだけでなく、具体物を使った方が、子どもはもっと主体的に取り組めるのでは?』などの、的確で分かりやすい表現で伝え、良好な人間関係の中でよく話し合うよう心掛けています。また、授業の内容が良ければ、すぐに『良かったですね』と伝えることも大切にしています」

年3回行う授業観察の評価シートには一人ひとりにコメントを入れて渡すなどして、個々の教師とも真剣に関わっている。こうして教師が納得しながら言語活動を意識するようになったことで、生徒の反応が良くなっていった。10年度末、こうした手応えを基に、研究主任が自主的に次年度の研修計画（言語活動）を作成した。

校内の足並みがそろった11年度、校内研修会の1回目に、谷合校長は今年度の研究のねらいと概要をA3用紙1枚に明記し、教師に示した(図2)。当日の様子はP.17〜19参照。これはプロセスの②③④に当たる「生徒の現状」「言語活動の充実を目指すことで高まる力」「身に付けさせたい力と目指す生徒像」「研究の進め方」「教師が取り組むべき内容」「成果の検証方法」を端的にまとめたものだ。

図2 2011年度の研究のねらいと概要



一番下の「成果の検証方法」に書かれている内容は、検証のポイントとして大切なだけではない。「言語活動を取り入れた教育活動を続けると、こんな生徒の変容が見られる」という、同校の目指す生徒像でもある

*上記は加工可能な形でウェブサイトからダウンロードいただけます
<http://benesse.jp/berd/> > 情報誌ライブラリ (中学校向け)

果の検証方法」を端的にまとめたもの。研修会では、教科、学年、単元ごとの言語活動が一目で分かる「言語活動シート」(P.18 図3)のひな型を示した。これを基に各教科で1か月ほどかけて指導計画を記入する予定だ。これはプロセスの③④に当たる。「言語活動シート」や研究授業で使用する指導案(P.19 図4)のひな型は、谷合校長が作成した。指導案でこだわったのは、「指導と評価の一体化」だ。授業に言語活動を取

校長が示した案を基に 全員で協議

り入れるだけでは、手段が目的化するだけ。教師の指導力向上にはつながらない。指導案には、授業全体に関して、教科ごとの評価の観点に応じた評価規準と方法を記入する欄を設け、指導案の展開の中に評価規準、評価の観点、評価方法を明記する欄を設けた。

校長が率先して枠組み作りを進める理由を、谷合校長はこう話す。

「忙しい中で、ゼロから作り出していくの

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

は難しいことです。しかし、大枠やひな型があれば、それを基に自分で工夫しながらより良いものを作ることが出来ます。学校全体で新しい取り組みを始める時は、リーダーが道筋を明確に示すことが大事だと考えています。私の場合、自分の考えを全て文章化し、先生方に配布しています。全ての先生に基本方針をぶれなく伝え、共有することが出来るからです。この考え方が正しいかどうかは分かりません。しかし、まずは私の案をたたき台として、先生方の意見も取り入れながら方向性を定めていければよいと考えています」

プロセスの⑤⑥⑦⑧にある、各教科で取り組む内容や指導内容の明確化などについては、研究主任が中心となり、各教師が研究授業や研究協議会、指導計画案づくりなどを通して、主体的に取り組む。

「校長の仕事は大枠を示すことであり、その後は先生方に任せています。生徒の姿を最もよく知り、各教科のプロであるのは先生方ですから。もちろん、課題があれば一緒に解決法を話し合っただけで済ませず、指導案にも改善を求めます。そこは真剣勝負です」(谷合校長)

各教科の計画と合わせて、行事や生徒会活動など、学年や学校単位での活動も検討する。例えば、校外学習の事前・事後学習でどのような調べ学習や発表会を設けるのかを、言語活動の視点で位置付けていく。

「教科を通して学んだ言語活動を授業以外

の場面で生かし、それを再び教科に返す。その繰り返しこそが本場の『生きる力』を付けるのだと思います」(谷合校長)

11年度後半は、教科書研究に力を入れると共に、新学習指導要領の指導評価規準をじっくり読み込みながら、12月までに12年度の指導計画を完成させる予定だ。

「新学習指導要領の導入に向け、今しなければならぬことは明確です。当たり前のことを当たり前に、確実に取り組み、目指す生徒を育てていきたいと思えます」(谷合校長)

谷合校長が考える言語活動

生徒が授業で学んだ知識を自分の言葉で整理し、相手に分かりやすく伝えられるようになると、自分や他者に対する認知力が向上します。そうすれば、「こう言ったら相手が傷つくだろうから、こんなふうに言ってみよう」と相手を気遣う言葉を発することができ、人間関係力も向上します。人間関係の質が高まれば、学級集団も良くなる。言語活動は、学力を向上させるだけでなく、結果的に質の良いコミュニケーションが出来る集団を生み出せるものだと考えています。先生方にはそうした生徒の変化を実感し、教師としてのやりがいを感じていただけるように支援していきたいと思えます。

2011年度 第1回 校内研修会の様子

研究を始めて1年が過ぎた6月、言語活動を意識的に取り入れるようになってから初めての校内研修会の様子を紹介する。

●研修会の概要

当日は1年生6クラスの全担任が数学、保健体育、理科、英語の授業を同時に公開。他の教師は、あらかじめ示された参観の三つの視点①「学習のねらいに有効な言語活動であったか」などの「言語活動の視点」、②「評価内容は学習状況を見取るのに適切だったか」などの「指導と評価の一体化の視点」、③教材・教具の使い方など「その他の授業改善の視点」に沿って、「効果的だと思う点／自己の教科に活かしたい内容」と「工夫が必要と思う点／質問事項」を付せんに記入する。

当日の放課後に研究協議会を実施。前半50分の分科会では、授業者が簡単な振り返りをした後、参観者(教科混成)が付せんの内容を発表し、議論。最後に指導主事が助言をする。途中、参観者が指摘した教材の工夫について、指導主事が授業者に1対1で具体的なアドバイスをする場面も見られた。

後半30分は、各分科会での議論内容を代表者(主幹教諭)が発表して内容を共有。その後、助言者の指導主事からの講評の後、谷合校長が、「言語活動シート」の趣旨を伝えた。

図3

「言語活動シート」

●「言語活動シート」のひな型

思考力・判断力、表現力等を育む学習活動		(1) 教科 (2) 特別活動 (3) 学校行事 (4) その他の活動で、取り組む具体的な活動内容	
1	体験から感じ取ったことを表現する力	1	(1) 俳句の作成、学習レポート、職場体験感想文、合唱 (2) 合唱部昇昇の取り組み、ボランティア活動 (3) 校外学習、学習旅行、運動会、合唱祭等における感想文 (4) 人権作文
2	事実を正確に理解し伝達する力	2	(1) 総合的な学習の時間における体験報告会 (3) 校外学習等における調査結果報告
3	概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする力	3	(1) 各教科において既習したことを活用して問題を解いたり、課題を解決したりすることのできる力 (2) (3) 実生活の場面に基いた学習活動
4	情報を分析・評価し、論述する力	4	(1) 統計資料等の活用を通して分析活動、その結果を活用する力 (2) 学級・委員会活動等において話し合い活動等による協働的決力
5	課題について構想を立て実践し、評価・改善する力	5	(1) 課題解決的な学習活動を通して、構想・予測し、実践・実践を通して、その結果から評価・改善する力 (2) (3) 取り組む結果を振り返ったり、適切に評価し改善する力
6	互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力	6	(1) 課題解決的な学習活動を通して、自らの考えを伝え合う力 (2) 生徒会活動、学級活動等における学校・学級・学年等の課題解決を回り、向上させるための話し合い活動
日常的な指導		1 読解力の育成 ○教科、丁寧等の適切な活用力の育成 ○臨に前した適切な言葉遣いができる力の育成 ○相手の立場に立った言葉遣いができる力の育成 ○全教科活動の場面に於ける指導 (教科・学級活動・行事・部活動) 2 表現力の育成 ○自分の思いを文章や言葉を使って表現することのできる力の育成 ○事前で自信をもって自分の考えを発表することのできる力の育成 ○各教科・学年・学級・生徒会活動等による報告会・発表の場の設定 3 思考力・判断力 ○主体的に考える力の育成 ○人の意見や考え方を聞いて判断する力の育成 ○ディベート等の導入、各教科・学級等による話し合い活動、考える時間や場面等の場面的な設定	
教科名		各教科の言語活動指導のポイント	
各教科	国語	話すこと、書くこと、聞くこと、読むことのそれぞれに、記録、要約、読解、論述などを重視する。	単元ごとの言語活動指導計画 4月 5月 6月 7月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
	英語	指導する語の総数を1200語程度とする。発音と綴りを指導するための指導を実施する。文法の指導は、言語活動と関連づけて指導を実施する。日本語との違いに留意した指導を実施する。	1 2 3 年
	社会	社会的現象の細味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを重視する。	1 2 3 年

* 図は一部抜粋。資料の全体は加工可能な形でウェブサイトからダウンロードできます <http://benesse.jp/berd/> > 情報誌ライブラリ (中学校向け)

●「言語活動シート」の活用ステップ

ステップ 1 教科単位で作成…各学年、各単元でどのような言語活動を取り入れるのかを意図的・計画的に進めるための土台とする。各教科会で、今回の研修から1か月ほどかけて作成する。

ステップ 2 全教科でまとめる…各教科分をまとめ、一覧できるシートにする。ここまですが11年度の作業目標だ。次年度以降、「総合的な学習の時間」や学級活動などあらゆる教育活動でも活用できるようにする。

参観者 計算練習で、マイナスのマイナスはプラスになるなどは、今日のような理屈を教えるよりは感覚的に覚えさせる方が良いのでは？

司会 いや、今回は4観点のうち表現・処理を重視したものではないので、答えを出すための別の授業のパ



●分科会の様子(数学分科会での内容を部分抜粋)

主幹教諭が司会進行役となり、参観の三つの視点のうち「言語活動の視点」に絞って協議した。

参観者 3人でのグループ学習について。基本の四則計算が出来ない子どもが一定数いたので、3人全員の理解度が低い場合は時間の無駄ではないか。理解できないまま進んでしまう懸念があり、今の段階でどうにかしないといけない。

授業者 確かに、一部の子どもは混乱していて、期末テストに向けて補習の必要を感じている。

参観者 もう一つ気付いた点は、教師とのコミュニケーションだ。授業者が、問題を各自で解かせた後に分かった子に挙手させた場面があったが、あそこではほとんどの手が挙がるまでじっと待っていた。コミュニケーションの一つの形であり、良いと思った。講義形式の授業と比べて全ての理解度の子が意欲的に学び、力が付くと思う。

司会 発表の仕方は課題。特に、数学ならではの、「理論や根拠に基づいた説明の仕方」

ターンがあるのでは。今回は「見つける」という導入の部分が鍵だったのでそれを議論したい。

参観者 4つの数を使って合計を10にするゲームは、楽しみながら四則計算のきまりを習得できる良い方法だと思った。授業の最後にあえて間違っている子に解き方を説明させ、間違えた点を全員で共有した点については、時間はかかるが、個の間違いを正すのではなく全員を正す良い指導だと感じた。

参観者 楽しく活動していたが、それだけではいけない。単に話し合いをさせるよりも、理解の進んでいる子が分からない子に教えてあげるようにする形態の方が良かったのではないか。

参観者 子どもたち自身が、自分の考えを話したり、分からないから聞いたり、それに対して答えたりする学習形態に慣れていない。これがスムーズに出来る力を付けさせたい。もう一つ気付いた点は、教師とのコミュニケーションだ。授業者が、問題を各自で解かせた後に分かった子に挙手させた場面があったが、あそこではほとんどの手が挙がるまでじっと待っていた。コミュニケーションの一つの形であり、良いと思った。講義形式の授業と比べて全ての理解度の子が意欲的に学び、力が付くと思う。

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

図4 校内研修会用「指導案(数学)」

授業は目標に始まり、目標に終わります

教科に応じて、また単元に応じて、どのような言語活動を実施するのかを記載します。今後、年間を通して、言語活動について、どのような内容・方法を指導するのかを検討する必要があります

単元の指導計画の指導と評価の一体化に基づき、評価の観点に応じた評価規準と方法を記入してください

⑥に示された指導目標を達成させる内容を示すこと。⑧に示された言語活動が必ず示されていること。⑨の授業改善の工夫が示されていること。⑩評価規準を見取ることのできる指導内容・方法になっていること

分科会で議論された授業の指導案(3人のうちの1つ)。吹き出しは、指導案のひな形を示した際に、谷合校長が添えた作成のポイント

平成23年度 府中第三中学校 校内研修用指導案「言語活動の視点を取り入れた学習指導」			
①実施日	6月16日(木)	②授業者・学級	千葉 光 1年A組
③教科名	数学	④単元名(題材名)	正の数・負の数
⑤単元目標	数の範囲を拡張して計算の可能性を広げ数についての処理がいつでも手際よくできるようにする。		
⑥本時の指導目標	四則混合計算のきまりを理解することができる。		
⑦単元における言語活動の視点	加法・減法・乗法・除法や、その混合計算の方法を説明する。		
⑧本時における言語活動	計算のきまりにしたがって、四則混合計算の仕方を説明する。		
⑨本時の授業改善の視点	教具等を利用して、生徒の発言・活動の時間を増やす。生徒主体の授業をより進める。		
⑩本時の評価規準と評価方法(指導と評価の一体化)	○知識・理解：四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する。		
⑪本時の指導計画	⑫言語活動	⑬授業改善の視点(工夫点)	評価規準・方法
展開時間(5分)	○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示		
展開(40分)	小学校で学習した四則計算のきまりの確認 ① 乗除優先のきまり ② 括弧優先のきまり	課題：一連の計算式から間違いを探す(全7問)(ワークシート1) 大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。 3人グループ(計6班)で話し合わせる。また、問題ごとに黒板にまとめる人と全員の前で発表させる人を決める。	○(知識・理解)四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法：発言内容ワークシート
まとめ(5分)	○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告		
⑭板書計画・教材・補助資料(ワークシート等)の活用			
板書計画			

共通の授業の視点です

共通の授業の視点です

⑩に示した評価規準がここに示されます。
・評価の規準
・評価の観点
・評価方法
の3点を必ず明記してください。
評価規準と指導内容が一致していること

⑨の授業改善の視点・工夫点について詳しく記載します

上記のシートは、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> >情報誌ライブラリ(中学校向け)

について、授業を積み重ねながら育てていく必要性を感じた。授業時数と指導内容とのバランスがあるし、今回みたいなことは毎回出さない。こうしたことを踏まえた年間カリキュラムを作っていけばよい。

指導助言者 今日の授業は、表現をする場面を意識的に作り、子どもたちが意欲的に取

り組んでいた点が良かった。こうした授業を1年生で行っていることが重要で、今後も続けると、3年生になれば、必ず上手に表現できるようになる。数学では、数学の力を深化させることと、全体で共有することのために言語活動を行っている。数学科の目標に「数学的活動を通して」とあるが、ここを押さえ

ることが重要だ。また、子どもの言語活動を周囲が支えることも大切になる。例えば、子どもが発表する時に、先生が「静かにさせる」「注目させる」ことによって、気持ちよく発表させることなどがそれに当たる。ここが出来ていたので、伸びしろがあると感じた。課題は、「考える」と「発表する」の両方を50分に押し込んだために、時間が足りなかった点。また、課題の難易度が高かったため、もっと簡単にした方が、子どもは考えを巡らせることが出来たのではないか。言語活動は日々の姿勢が大事。話し掛ける子どもの方を向いて話すなど、先生自身の積み重ねで子どもも変わる。3年後の姿を期待して、頑張っていたいただきたい。

● **研修会を終えて、授業者の感想**

言語活動を意識した授業とはどんなものかを実感し、今までの授業を振り返る良い機会になりました。特に分科会での議論が、教科や経験年数に関係なく発言し合えたので、最も勉強になりました(数学・延本先生)

分科会で、グループ学習の仕方や人数割などについて、他教科の先生からたくさんアドバイスをもらって参考になりました。これから始まる習熟度別の授業で生かしたいです(数学・千葉先生)